

志戸田 永澤義人

1. 吉田川による堆積した土地の水田だった場所が開発されてた地に建設された官公庁や病院・警察署・消防署や大きい商店が灌水したのです。灌水したところは書く同四号線から西に向かう団地の真ん中に作られた道路の両脇に作られた建物なのでした。もちろんこの道路も大水のときには交通止めで水がごうごうと流れていました。

これらの土地は素晴らしい田んぼでした。ところが田んぼがつぶされて団地の用地となってしまいました。この開発された土地が公共用地に活用されました。その土地の名前は「吉岡南」といいます。

この地区に建設された建物は和町役場、マホロバホール、黒川病院、黒川農協、黒川消防署、和警察署などです。これらの建物がほとんど灌水したのです。

団地開発でつくられた道路は大川のように水が流れました。

私はあのりっぱなたんぼをつぶしたのだから天照大神が怒って大水を降らせたのだ言ってます。

吉岡の町は吉岡ですから伊達家の城もあった高台だったのですがその土地を捨て吉岡の低い土地と吉田川の中の堆積地の田んぼを団地にしました。

その団地が水害の被害が多かったのです。

その水は吉田川の本流があふれたものなのです。

地区名で言うと清水、高田あたりで吉田川は水位があがり兩岸に流れ出したものだったのです。

このあたりは吉田川は普通は低いところを流れていて、堤防がないのです。

よして川の兩岸吉田川による堆積した土地は上等な田んぼだったのです。

2. 吉田川の増水によって被害を受けた地区

1) 田んぼの冠水

吉田川の北側の土地が冠水したところが多いのです。

清水(吉田) 高田(吉田) 舞野(落合) 蒜袋(落合) 檜和田(落合)
報恩寺(落合) 三ヶ内(落合) 二の関(富谷) 三の関(富谷)
志戸田(富谷) 下草(鶴巣) 北目大崎(鶴巣) 大平(鶴巣) など

今度の水害は被害地域はかなりひらかったのですが冠水時間はそうながくなく数時間から10時間くらいだったようです。割に早く水が引いたようでした。倒伏という稲が倒れるということがあって稲刈りは大変なようでした。機械が田に入れなくて手刈り(かまで人手でいねをかる)農家もかなり多かったようでした。今年は棒に稲をさして干しているの棒がけという稲のほしかたもかなり多くみられました。田んぼのなかにはプラスチックや木材や倒木などがあちこちにちらばっていました。これらをかたつけるのもこの田を持っている農家の人々だったのです。数週間後に機械で稲刈りをしている姿をみかけますいたがかなり遠くからそれが分かるのです。稲刈り機械のまわりがもうもうとつぼこりがたって

いるのです。稲刈り機械をウン手ああしている人はさぞ大変だったことでしょう。

太子堂の高台からみると吉田川の両脇が大きい川というより海のように見えたのでした。ごうごうという音とともにものすごいながれでした。やはり川の両岸はいまは田んぼでも川の領分なのだと感じました。

2) 住居の冠水

大水のあと二日後に高田・舞野・蒜袋をまわってみました。

家の前のに何かたてかけられて干されている畳

茶箆筭などの家具 布団などの寝具

どこの家の前にいろんなものが干されているという風景でした。

道路には車がいっぱいとまっていました。

ボランティアの人たちののってきた車です。

冠水した家の後かたづけにきてくれたのです。10人くらいの列になって道路をあるいていました。一軒一軒まわって水害の後片づけをしてきていました。一週間くらいお手伝いに来ていたようです。

富谷の中央公民館の副館長をしている相沢さんは舞野にすんでいるのですがどうでしたと聞くと

「あつというまに家に水がはいつてきて1メートルくらいの水の高さになり畳もふすまも家具の衣類もみんなだめになりました。」

今度の水害の特徴は「このあつというまに水がはいつてきた」というのが特徴です。雨がものすごくつよかったということでしょう。

あつという間に田んぼが一面の水になったというのです。

3) ゴミのこと

舞野公民館 校庭が廃棄物の耶麻でした。

今は公民館ですが少し前までは落合小学校の舞野分校でした。けっこう広いところだったのでその運動場にごみがものすごく高く積みあがりました。

スーパーの駐車場も廃棄物の山

ヨークベニマルというスーパーも冠水したのですがその駐車場にも廃棄物がいっぱいでした。電気器具はほとんど使い物にならないということでした。

富谷町のごみ収集業者もごみの運搬やせいりにがんばっていました。

4) 黒川高校・蒜袋地区の冠水

黒川高校や蒜袋地区も冠水したというので行って話を聞くと吉田川の水が直接ながれこんだのではなく大衡からながれてきている吉田川の支流の善川の水があふれてきたのでした。支流からの増水ということも大切だったのです。品川さんという蒜袋の町内会長にきいたのですがやはりあつというまに善川の水がいっぱい流れこんできたのだということでした。

いろいろと考えさせられることが多かったのです。

吉田川の支流の西川、宮床川も増水しました。30センチの小さい堀も危険あつというまの増水 団地開発の土地 支流の増水 廃棄物の処理 など